

高齢者世帯におけるペットと防災

高齢者にとってもペットは、家族や伴侶として生きがいと安らぎを与えてくれ、存在は大きなものです。大切なペットともしもの時に備え、高齢者と周囲の人々の日頃からの関わり合いが大切です。

ペットを飼育されている高齢者の方へ

ペットを連れて避難するために

基本的に、ペットを連れて避難することは可能です。ただし、地域により受け入れ方は様々です。自分が行く避難所ではどのような形で受け入れがあるか平時に確認しておきましょう。フード・お薬などや、避難グッズを準備しておきましょう。万一、同行避難しない場合、預けられる場所や人など探しておきましょう。

例) 親戚・ペットサロン・ペットホテル・ドッグトレーナー・かかりつけの獣医など。



ペットを飼育されている高齢者の周囲の方へ

高齢者とペットの安全を守るために

高齢者とペットの安心した暮らしのためには、周囲の方の思いやりやご協力が欠かせません。ご近所や周囲のペットを飼育されている高齢者に、

- 単身または高齢者のみの世帯である。
- 家族や親戚などと付き合いがなさそうである。
- ご近所づきあいがなさそうである。
- 足腰が弱ってきている。
- 散歩にいく姿が辛そうである。

このような様子が見られる場合は、ぜひ日頃から気に掛けていただき、いざという時のお声がけや避難の手助けをお願いします。



アンビシャスの

ペットと防災 ガイドブック

ペットフードって
配布されるのかな？

避難所ってペットを
連れていける？

だっこして
避難所にいける？

どんなものを
用意すればいい？

必要なしつけて
ある？



認定NPO法人アンビシャス

〒604-8417

京都市中京区西の京内畑町26 Ken&Lalaマンション1F

☎090-9046-5160 📠075-841-3897

認定NPO法人アンビシャス 綾部班

〒623-0042

綾部市岡町四ツ尾下26-3

☎090-8576-4658 📠0773-43-0416



アンビシャスHP



防災チャンネル

<https://npo-ambitious.com>

✉office@npo-ambitious.com

飼い主の日頃の心得



- 安全確認をして自宅で待機?
- 信頼できる人に預ける?
(親戚・ペットサロン・ペットホテル・ドッグトレーナー・かかりつけの獣医など)



ペットと避難するための準備と心得

災害時には、自分とペットの命を守り、すばやく避難することが大切です。ペットを連れ出すのに時間がかかり、逃げ遅れないように、日頃から以下のことを心がけておきましょう。

平常時の準備が大切です!

猫の逃げ場を把握しておく

「普段からよく猫が逃げ込む場所」を把握しておくと、地震や大雨などのとき、猫を探しやすくなります。

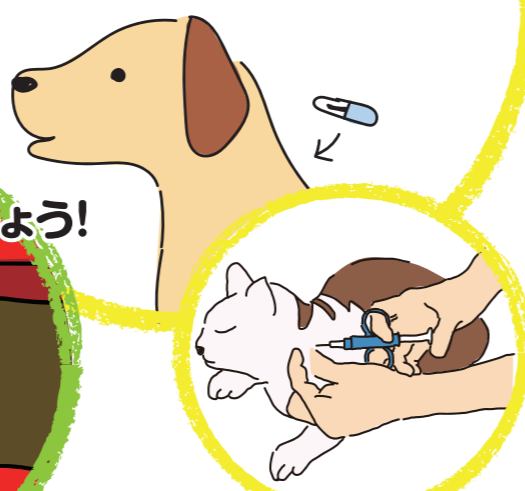


ネコは室内飼いしましょう!

首輪が引っかかる事故が起きやすいため猫の首輪ははずれやすくできています。猫同士のケンカなどで感染する病気もあります。排泄物の放置が迷惑になります。

マイクロチップの装着

犬や猫は逃してしまうと捕まえるのが困難です。探す際には、マイクロチップや首輪の装着が有効です。(かかりつけ獣医に相談してください。)



ペットと一緒に使える避難バッグを備えよう! (最低7日分)

オーナーによる事前対策に避難バッグがあります。災害時には薬や食べ物、衛生用具など、生活用品を最低でも7日分いつでも持ち出せるように、ペットの分とまとめておくとい良いでしょう。一時的な避難場所としてペット用ケージも準備しておきましょう。

